

教職課程センターだより 第2号

発行日 2008年12月15日

来春 正規採用教員として20数名が教壇に立つ予定

今年度教員採用試験の最終結果

概況（いずれも延べ人数）

4年生	・・・	合格	10名	補欠合格	5名
卒業生	・・・	合格	14名	補欠合格	2名

1、採用結果—今年度の特徴

※ 以下の数字には補欠合格を含み、現卒を合わせたものである。

- ① 名古屋市合格者が実人数12名と最も多い。一方合格者が9自治体に大きく拡大。
- ② 東海地方では名古屋市以外に愛知県4名、静岡県4名、三重県2名の合格者。
また大阪・滋賀・和歌山・石川の各府県・川崎市でも合格者各1名。
- ③ 合格者は特別支援学校が約70%。しかし中学社会6名の他、小学校4名（卒業後小学校免許を取得ないし取得見込みで受験）も合格。高校福祉1名も合格。
- ④ 今年度の合格者数は、対昨年比で、約2.5倍の増加。

2、教員採用試験の傾向について

中学社会や特別支援学校枠に限って、今年度の採用試験を振り返ると、各自治体に共通する傾向として次のような点を挙げることができそうである。

I. 基礎的な知識・素養が求められている。

いわゆる教職教養も専門教科についても、その内容や知識は、基本的なレベルの素養を問う問題が多い。論作文はほとんどの自治体で実施されている。また一般教養や社会科では時事的な関心を問う問題も出ている。

II. 実践的な姿勢や能力を問う試験が導入されている。

かなりの自治体で、学習指導案を事前にあるいは当日作成させ、模擬授業場面を設定し、試験官が口頭で指導のあり方を問うといった試験が行われている。

III. 人物重視の傾向が一層強まってきている。

個人面接や集団面接の他に、集団討論やロールプレイングを導入している自治体も多い。教職への意欲・向上心・責任感や協調性など、教員に求められる資質が評価される。

上記I・II・IIIともに、その資質や能力は「付け刃」では身につかないものだとすることを、改めて確認しておきたい。日々の学習の充実の他に積極的なフィールド体験を積むなど、主体的な学びを期待したい。

教職課程学生諸君への メッセージ

～ 大和田孝士 先生より

本学に来て2年目、ちょうど一昨年の今頃本学へ勤めさせていただくことを決めたことを記憶している。実のところ、教育委員会が勧めてくれる嘱託の勤めが気に入らなければ、何もしないで、家で字（書）でも書いていようと考えていたのである。それがである、なぜか「もういい、やることはやった、もう忘れよう？」と思っていた「障害児の教育」に関係をもつことになった。実際は「関係をもつ」などという生易しいものではなく、障害児教育そのものに携わることになった。もちろん自分から進んで決めた道ではある。

90分の講義は大変である。それなりに予習も要る。体力は大丈夫か……。そんなことを考えながらも、自分では「何とかなる」と考え（本当は何事も深く考えない、いや、考えようとしないのだが）、定年後は特に面倒をかけることになると考えていた女房に相談をした。女房曰く「あなたの好きなようにしたら」。その返事の本心はどうであったか分からないが、ひょっとしたら「毎日家に居られたら大変だ。家に居なくて、しかも少しでも稼いできてくれるのなら、こんなに有り難いことはない」ぐらいに思っていたのかもしれない。夫婦などというものは、長い年月やっていると、ある面では非常に結びつきが強くなる半面、まるで赤の他人同士であるかのように相手のことはどうでもよくなるものである。

自分で決めた道ではあっても大変なことは多々ある。私の大学勤めのモチベーションを高めてくれたのは、周りの教職員の方々の御支援はもちろんであるが、何といても学生諸君の明るさと素直さであると思っている。教職を志す、福祉を目指す、そんな学生諸君にとって明るく元気であることはとても大事なことであり、素直であることは知識を吸収する、幅広くいろんなことを受容するにも大切な要件であると思

っている。

ところで、やはり2年目ということになるが、今年度も介護等体験や教育実習の巡回を担当させてもらった。すべてを担当しているわけではないので、関係の先生からお聞きしたことも含め、感想的なことを述べさせてもらう。

まずは、ほとんどどこの実習校でも、本学の学生は「みんなよくやっていますよ」と仰っていただいている。多少の社交辞令がないことはないと思われるが、概ねそうであると感じている。教職を志す人たちであれば、それぐらいの評価をいただくのは当然であろう。しかしあくまで「概ね」である。少々厳しい言い方になるかもしれないが、もう少し「自覚」を持って欲しいと思う。学校は多忙な中、指導・面倒をみってくれる、皆さんを受け入れてくれている。立派な後輩を育てようと。また、学生諸君には、同窓の先輩が勤めてもいるし、次の年には後輩がまた世話になる。それから、皆さんは子どもの前では先生である。こんなことを念頭に実習生としての自覚をもって実習に臨んでくれるならば、子どもたちの言動を見る目も、子どもたちに対することばがけ一つも自ずと変わってくるであろうし、実習校における服装や振る舞いもちゃんとしたものになるのではないか。

自分で選択した道だと思います。学生諸君には大いに勉学に励んで欲しいし、大いに遊んで欲しい。折り目切り目をつけ、遊ぶときは大いに遊ぶ。勉強するときはしっかり勉強する。これが大事だと思う。自分自身のためにも、後に続く後輩のためにも頑張るって欲しいと思う。

教職課程センター 大和田 孝士

四月から教壇に立つにあたって

社会福祉学部4年 千原 ひとみ

今年、名古屋市の教員採用試験に無事合格することができ、来年からは念願だった特別支援学校または特別支援学級の教員として働くことになる。

そもそもなぜ教師になろうと思ったのかというと、中学時代に数学の苦手な友人に解き方を教えていた時、分かった時の友人の嬉しそうな表情を見て喜びを感じ、将来は『教師になって生徒の分からないをなくしたい』と考えたからである。

しかし、高校に入学したころから勉強につまずき、教科の学習に対しての自信がなくなると、進路を考える際にも『教師になりたい。しかし、自分は何を教えることができるのか。』と悲観していた。大学選択も『とりあえず教科選択のない初等教育での教育学部を受けよう。』とあいまいな形で受験に向かおうとしていた。

そんな時にある大学のオープンキャンパスへ赴き、目当ての初等教育の説明と一緒に「障害児教育」の説明を聞いた。その時、なぜか初等教育より障害児教育に強く興味を持った。ほとんど障害のある方と関わることもなかった私にとって「障害児教育」は未知の領域だったが、勉強だけではない教師の可能性を感じ、自分のやりたいことはこれなのかもしれないと思った。そこから障害児教育について勉強を始め、将来は特別支援学校教諭になりたいと考えるようになった。

このように、高校からの夢を叶えることができたことをとても嬉しく思っている。

しかし不安もある。本当に自分に特別支援学校教諭が務まるのか、ということだ。実際に実習で体験してみても、子どもたちを理解することの難しさを痛感した。言葉があったり感情の表出があったりすればおおよその気持ちは理解できる。しかし、言葉がなく表情にもあまり変化のない子どもたちの気持ちを読み取ることは大変難しい。実習では自分以外に指導教官がいたため、分からない時には聞くことができた。

だが、これからは自分で理解していかなければならない。今の段階で考えると絶対に『できない』だろう。しかし、自分にできること、『分かってあげたい』という心をずっと持ち続けて悩みながらも子どもたちにつづかっていくことを忘れずにいたいと思う。

先日、実習校の公開研究発表会に参加してきた。現場の先生方の練りに練った授業を拝見し、その完成度に私は圧倒された。しかし、その「授業を深める会」で参観されていた多くの先生方から「配列に意味はあるのか」「音が多すぎではないか」「遊具への移動の際、子ども们的意図は反映させているのか」など、多くの意見が飛び出した。普通なら流してしまいたいような場面でも、立ち止まってみるとこんなにも可能性が広がっているのかと驚いた。もっと多くのことを学びたいと思った。

四月を前に私は、過去の自分と今の自分を思い返している。悩んだこと、感じたこと、さまざまなことがこれからの自分、未来を創っていく。今の情熱と努力することを忘れずに、生涯の仕事として教師人生を生きていきたいと思う。





教壇での出発を前にして

社会福祉学部4年 高見澤 恵子

今まで夢に見ていた教壇に来年の春から立つことができることになりました。嬉しい反面、私は教育実習でしか教壇に立つことがないので、こんな私が本当に教壇に立っていいのかと考えると不安でいっぱいになります。でも、そんなときに思い出すのが教育実習で出会った子どもたちの笑顔です。

私は教育実習を通して教師になりたい、もっと子どもたちの力になりたいという思いが強くなりました。教育実習が終わってからは、教員採用試験の勉強を必死にしてみました。途中で心が折れてしまいそうなきが何回もありました。しかし、そんなとき、生徒たちの「絶対先生になってね」「頑張ってね」という言葉や笑顔を思い出し、私は自分のためじゃなく、生徒たちの笑顔のために勉強しているんだと思うことができ、最後まできらめずに頑張ることができました。こんな私のことを「先生」と呼んでくれた生徒の気持ちを私は絶対に裏切りたくないと思うし、これから出会うであろう生徒たちのために努力をすることを忘れずにいたいと思いました。こんな気持ちにさせてくれた生徒たちに感謝の気持ちでいっぱいです。教師になってからも様々な壁にぶつかるとは思いますが、子どもたちの笑顔を忘れずに、頑張って乗り越えていこうと思います。

教壇での出発を前にして様々な思いを抱えています。が、やっと叶った夢を途中で投げ出すようなことは絶対にしたくありません。私は今自分でできることを精一杯やってこれからの教師としての道を歩んでいきたいと思っています。

2年生教職課程学生の集いの開催について

2年生教職課程学生の集いを以下の日程で行います。教員採用試験に合格した現4年生を以て、教員を志した者や教員採用試験に向けての勉強をしてもらいます。今後の学習に必ず立つと思います。重要な会ですので、ぜひ加してください。

日時	2009年1月8日() 15:00 - 16:30
場	イセンター 3 ール
内容	4年生教員採用試験合格者からの励ましの言 3年次からの学業生のり方 教員採用試験に向けての勉強方 (合格者の体験から)



2年生中学社会課程登録者対象 介護等体験ガイダンスの開催について

年次に実施する介護等体験についてのインを以下のように行います。中学校(社会)免許取得者は体験に行く要ありませんので、対象者は必ず加してください。

日時	年 月 日 () 限
場	教
内容	介護等体験とは? 介護等体験が免される場合 等

